

2023年4月2日（日）主日朝礼拝説教

『捨てられた神の子』井上隆晶牧師  
詩編 22 篇 1～9 節、マルコ福音書 15 章 33～41 節

### ①【万物の終わり】

イエス様が十字架にかかれた時、不思議な現象が起きました。「**昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた**」（マルコ 15 : 33）のです。イエス様は「**義の太陽**」といわれます。そのイエス様が死のう（沈もう）としていたので、被造物である太陽も恐れて身を隠したのだと教父たちは解釈しました。こうやって自然界はイエス様に従い、イエス様こそまことの神の子であることを証しました。詩編 88 篇はその時の様子を予言しています。「**愛する者も友も、あなたは私から遠ざけてしまわれました。今、私に親しいのは暗闇だけです。**」（88 : 19）旧約聖書には「**主の日**」と呼ばれる世の終わりの日が来るのであり、その日には太陽が暗くなると預言されています。「**その日が来ると、と主なる神は言われる。私は真昼に太陽を沈ませ、白昼に大地を闇とする**」（アモス 8 : 9）ですからイエス様の十字架と共に、世の終わり（終末）は始まったのです。神の子の体が破壊されたのに、この世が破壊されずに残るはずがありません。ですから今は終末の時代なのです。しかしそれと同時に、キリストの復活によって万物の回復も始まったのです。ですから不思議なのですが、万物の終わり、万物の回復が同時に進行しているのが今の時代なのです。でも何も驚くことはありません。ノアの洪水の時もそうだったからです。箱舟の外は、古い世界の終わりと共に、新しい世界が始まっていたからです。

### ②【神の子が捨てられた理由～死を連帯するため～】

午後三時にイエス様は大声で叫ばれます。「**エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ**」これは「**わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか**」という意味です。（15 : 34）これは詩編の中で預言されています。「**わたしの神よ、わたしの神よ、なぜわたしをお見捨てになるのか。なぜ、私を遠く離れ、救おうとせず、呻きも言葉も聞いてくださらないのか。**」（詩篇 22 : 1～2）この叫びはいったい何を伝えようとしているのでしょうか。午後三時というと、エデンの園で神がアダムに「**どこにいるのか**」と呼びかけた時刻です。つまりアダムに死が始まった時刻です。その時刻にイエス様も死の世界に行かれます。

●Hさんという人の話をしましょう。太平洋大戦の時、Hさんは旧満州にいたのですが、ソ連軍が進撃をはじめたので、三人の幼い娘を連れて旧満州を離れました。やっとの思いで奉天に到着した時、敗戦のニュースを聞きます。町は無法状態となり、略奪、暴行が行われ、日本人の子供が売られる市場が立つこともありました。祖国に帰りた一心で大金を払い、子供の手を引いて釜山につきました。

やれやれと思ったのもつかの間、体力のない末娘は日本への船便の順番を待つ波止場で、眼を開けたまま息絶えました。ここまで来たというのに、今一步のところまで力尽きたわが子を憐れみ、震える指でまぶたを閉じてやるのが精一杯でした。ようやく博多につき、同船の女性に荷物を預けてトイレに立ち、戻ってみると荷物は盗まれていました。同胞だけはと信じていた気持ちが裏切られ、Hさんは人間不信に陥っていきます。彼女は無我夢中で働きましたが極度の栄養失調と不衛生により、次女も亡くなります。次女が死ぬ時、か細い声で「母さま、また天国で会いましょう」と言って死んでいきました。旧満州で教会学校に通っていた次女は、幼いながらも神様を信じていたのです。Hさんは重なる悲しみに打ちのめされ、骨壺を抱いたまま和歌山県白浜にある三段壁（自殺の名所）に向かっています。ちょうどその時、和歌山バプテスト教会の江見太郎牧師が、台風で倒された「いのちの電話」の立て看板を修理するために来ていました。江見牧師は崖に立っていたHさんを見つけ、教会に連れて行き、涙ながらの告白を聞いたとき、慰めの言葉もありませんでした。無意識に開いた聖書に「**わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか。**」という言葉がありました。その聖句を見たHさんの表情が変わり、抑えきれない思いが溢れ、泣き出したのです。イエス様の十字架の叫びは、彼女の心を激しく打ち、彼女はキリストを信じる人になりました。」

なぜHさんはイエス様の叫びで変えられたのでしょうか。それは神の子イエス様が自分と同じ様に見捨てられたような体験をされたからです。あなたが神に見捨てられたと思う時、そのあなたの横にキリストはいてくださいます。共に苦しみ、共に涙して下さい。ここに人間の救いがあります。「神は我らと共にいてくださる」のです。

「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という叫びは、神に見捨てられたような体験をされたすべての人を代表した叫びです。この言葉の通り、父なる神様はイエス様を捨てたのです。「**あなたはわたしを塵と死の中に打ち捨てられる。**」（詩編 22：16）それは死ぬという経験です。決して死ぬことのない神が、人間性において死ぬ経験をされたのです。死んだ人たちの所へ下って行くためです。こうしてイエス様は人間の死を分かち合い、死を連帯されます。死ぬことによってイエス様は完全に人間と一体になったのです。

●クリスチャンの精神科医の平山正実先生は本の中にこう書いています。「われわれの周りには、アルコール依存やDVの親の犠牲になって心を病むようになった子供がいます。子供の心の病の犠牲になって体や心を病んだ親がいます。家族の一人が病気になると、他の家族も同じように病むのです。病や死は個人的なものではなく、共同体全体のものなのです。犠牲の究極の姿は死です。『病や死を救うためには、病や死をわけあい、担い合うこと、つまり苦しみを連帯して担うことが必要なのです。』

神は私たちを捜し求めて、死の世界まで来て下さいました。だから最早、誰も「私は神に見捨てられた」ということはできません。実際は人間が神を捨てたのであ

って、神は人間を一度も見捨てたことはないからです。「私はあなたたがをみなしごにはしておかない。」(ヨハネ 14 : 18) はこうして成就したのです。

### ③【十字架は命の木=万物の回復の始まり】

37 節に「イエスは大声を出して息を引き取られた」とあります。ヨハネを見ると「成し遂げられた」という言葉だったことが分かります。英語では「It is finished. It is accomplished!」です。救いに関するすべてのことが完了したという意味です。イエス様の死と共に様々な不秘義な現象が起りました。自然界だけでなく、あらゆる物が、何が起こったのかを証したのです。それは世界の回復の始まりです。イエス様の流された血は、呪われた大地の上に染み込みます。こうして大地の呪いは終わりました。神殿の垂れ幕は上から下まで真っ二つに裂けました。この垂れ幕には命の木を守っていた天使ケルビムの刺繍がしてありました。その天使がキリストの死によって退けられ、エデンの園が再び開いたのです。百人隊長は「本当にこの人は神の子だった」と信仰を告白しました。十字架は恐ろしく悲惨ですが、何か不思議な慰めを感じます。絶望ではなく希望を感じます。闇ではなく光を放っています。古いものが終わり、新しいものが始まったことを感じます。

●埼玉教区の加藤智神父さんの家はお寺で、父親はお坊さんでした。お父さんは戦争に行き、人を殺しました。仏教では自分で罪を償うしかありません。そんな父の姿を見て修行する気がなくなったといいます。「ある時、キリスト教会の会堂に入って、十字架のイエス様の御像の前に足がすくんだという経験をしました。これは一体何なのか、この方は一体誰なのだと思います。そして、その時すぐにそこを逃げ出したのです。怖かった。しかし不思議なことに、繰り返しそこに帰る、帰らざるを得なかったという体験をしたのです。」

実は私もそうでした。私が最初にキリストの磔刑図を見たのは、小学生の時でした。学校の図書館にあった「新約聖書物語第二巻」の中にある十字架のイエス様の絵を見た時、目が釘付けになりました。怖いのですが、不思議とまた見たくなるのです。昼休みの度に、図書館にやってきては隠れてその十字架を見ていました。そんな私が今、牧師をしています。

●昔の祈祷文にこう書かれています。「炎の剣はもはやエデンの門を守っていません。これを退ける最も栄光ある十字架の木が現れたからです。死の棘および地獄の勝利は滅びました。わたしの救世主よ、あなたが現れ、地獄にある者に、また楽園に入りなさい、と呼んだからです。」

イエス様の十字架を教会は「新しい命の木」と呼びました。十字架によって死は終わり、万物は命を吹き返したからです。十字架によって呪いは終わり、天のあらゆる祝福と賜物が人間に降って来たからです。十字架は人間の苦難と死の中にしっかりと立っています。十字架は神がそれらを共に負っていて下さる「しるし」

です。神がそこにおられるなら、どんな悲惨な場所でも、そこは必ずエデンの園へと回復するでしょう。十字架はこの世に立てられましたから、この世もエデンの園になるでしょう。あなたの罪も呪いもすべての古いものは、この方の中で終わったのです。そしてあなたは新しい者となるのです。それを喜びましょう。